



新規就農者を徹底サポート！ 「OSINの会」

「OSINの会」とは大江町の新規就農者を支援する組織の通称で、正式名称は大江町就農研修生受入協議会。通称の由来は大江町の「O」、新規就農者の「S」、受け入れの「IN」で「OSIN」。さらに大江町が同名のテレビドラマのロケ地だったことなどもあり、OSINの会となった。

発足のきっかけ

OSINの会は平成25年4月に発足し、活動11年目を迎える。発起人は中山間地域等直接支払制度を活用する本郷南部集落協定の代表でもあり、現在も会長を務める渡辺誠一さん。

当時、町の中心に近い地域でも耕作放棄地が目立ち始め、果樹の担い手等が不足していた状況に危機感を覚え、賛同する町内の農家とともに、農家が自ら新規就農者を育てる組織として会を立ち上げた。会の運営資金は、農協からの資金や会費のほか、中山間地域等直接支払交付金等の補助金を積極的に活用しているとのこと。

「OSINの会」会長

渡辺 誠一さん



これまでに、就農者やその家族を含め60名ほどの方が町内に移住し、農業はもちろん、地域の一員として多方面で活躍しており頼もしく思っています。

大江町は自然豊かで、季節ごとにいろいろな作物に挑戦できる環境です。農業の知識や経験、自己資金が少なくても大丈夫！受入農家や仲間が優しく、時に厳しく就農までをサポートしていきます。ぜひ、私たちと一緒に大江町で農業を始めましょう。

充実したサポート体制

OSINの会の特徴は充実したサポート体制にある。就農支援の最初のステップである現地見学会は年に4回ほど開催され、参加者は季節によって変わる町の空気、雪の多さなどを肌で体感する。主に首都圏から来る参加者に、地域の良さだけではなく大変さも体感してもらおうという意図だ。

短期研修などを経て移住したあとは、研修生として2年間にわたって受入農家で経験を積む。就農に向けて農地を確保する際には、先輩農家が経験や情報網を活かし、農機が入りやすい農地や傾斜が緩い農地を紹介してくれる。

果樹栽培は苗木が育つまで収入が得られないが、その期間の収入源となる作物栽培の指導を受けることもでき、文字通り新たな人材が地域に根付き、芽吹くまでを支える体制が整っている。



担い手から導き手に

OSINの会の会員は共同作業場や農機具のレンタルを割安に利用でき、定期的に研修会が実施されるなど、就農後のサポートも充実。おかげでこれまで就農後のリタイア者は出ていないという。

現在では大江町の新規就農者のほとんどがOSINの会を通して就農している。新規就農者が耕作を行う農地は30haを超え、今もなお就農を控えた研修生達が着々と準備を進めている。

農業全体が担い手不足という課題を抱える中、徹底したサポート体制で新しい力を呼び込んでいるOSINの会。渡辺会長は今後の目標について「会発足当初に研修生だった者が、現在は受入農家として指導にあたっている。こうした好循環を継続できるようにして、今後も町の農業発展に尽力したい」と語ってくれた。

まずは一度遊びに来て！

OSINの会は東京などで開催される「新・農業人フェア」に町とともに年数回参加しているほか、販売研修を兼ねたマルシェへの出店なども積極的に行っている。

また、現地見学会（夏季）は今年も6月ごろに開催予定。「農業に興味はあるけど具体的なイメージが湧かない」という方は、ぜひ一度参加してみては？

詳しくはOSINの会HPを参照。PR動画も公開中！

